

デジタル民主主義の 川の流れを見る

2025-11-29 Code for Japan Summit 2025
「デジタル民主主義ブームを振り返る」セッション

西尾泰和

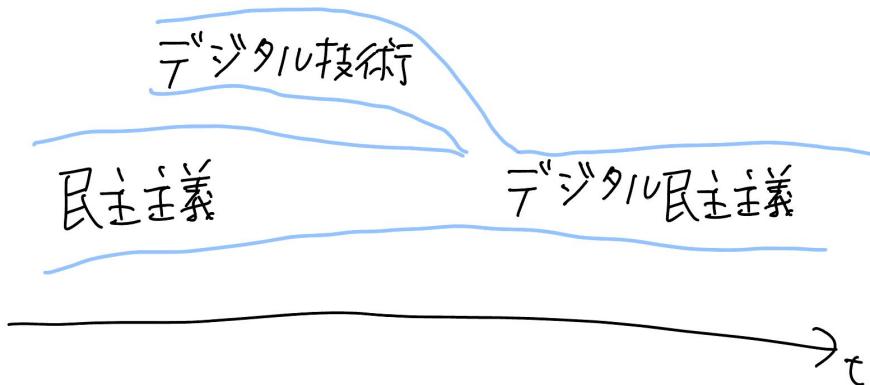


川の流れのメタファー

「デジタル民主主義ブームを振り返る」というタイトルは関さんが決めたんだけど、ブームという表現はなんか一塊のものみたいなニュアンスを感じてしっくりこない



西尾は「川の流れ」のイメージ、民主主義の川にデジタル技術がどんどん流れ込んでいる



新しいものが流れ込んだ川は変化する
かつて「印刷技術」や「放送技術」が
社会を変えてきたのと同じ

混ざった川は民主主義であり続けるか？

- インターネット技術が変化をもたらしつつあったところに重ねて
深層学習の技術(いわゆるAI技術)が流れ込んできたのが2023~2025年
- **平均的な人間より賢い AIが存在する状況で、従来の民主主義の「人間の多数決によって物事を決める」というやり方は「良いもの」であると正当化できるのか？**
 - この問い合わせここから数十年の間に議論になる。
 - 人々の多数派が「AIの方がいい」と考えたら、人々は参政権を手放して 賢いAIによる王制 (AI賢王制)に移行し、未来の歴史学者は「18世紀末のフランス革命・アメリカ独立戦争から 21世紀末のAI革命まで数百年の間、民主主義がブームだった」と書くだろう
- 「従来の民主主義」と「AIによる王制」の間にもっといいものがあるんじゃないか
と思って模索しているのがデジタル民主主義運動だと思っている
 - 「より良いもの」を見つけるためには物事を具体的・詳細に観察する必要がある
 - この発表では「流れ」に注目して詳細に見てみよう

インターネット→ソーシャルメディア→アラブの春→Polis(2012~)

- アラブの春(2010~12)やOccupy Wall Street(2011~12)ではFacebook・Twitter・YouTubeなどのSNS/ソーシャルメディアが活用された
 - ソーシャルメディアは「インターネット技術」によって「人々が直接発信できる力」を得て可能になった「従来のメディアとは異なった形のメディア」
 - エジプトの Rassd News Network は、2011年1月25日に Facebook ベースの市民ニュース網として立ち上がり、「From the people to the people(人々から人々へ)」を掲げていた
- ところがソーシャルメディアだけでは熟議や合意形成につながらなかった
- そこで「合意が形成されていく仕組み」を作ろう、となって Polisが生まれた
 - 「大人数がオンラインで意見を出し合うとき、会話が非効率で、全体像や共通点が見えない」という問題意識があった
 - 多数決で少数意見を潰すのではなく、どこに合意と分岐があるかを可視化し、橋渡しになる意見を浮かび上がらせる
 - 11年前の記事の写真→



<https://www.geekwire.com/2014/startup-spotlight-polis/>

ひまわり学生運動 (2014/3~4)→vTaiwan

- 政府の方針に反対した**学生**を中心として**国会議事堂**相当の場所を24日間占拠
- **Audrey Tang**はLANケーブルを背負って現地に行き、g0vのCPRチーム(Cable, Power, Radio。イベントなどでインフラ構築をするチーム)と連携して、占拠エリアと外の通りを結ぶネットワーク構築をした
 - 初既存メディアの一部は学生を「暴徒」と呼んだが、**ライブ中継**によって真実が明らかに
 - 警察・学生双方の行動が常時「見られている」状態になり暴力の抑止力になった
 - 外の人たちによる動画や議論のまとめが HackPad や Google Docs で行われた
 - 占拠2週間目には学生らは Reddit で質問を受け付け、**双方向議論**が行われた
- 2014末: Audreyら数人がリバースメンターとして政府に関わるようになる
→2015/8~ vTaiwan の最初の本格案件として UberX 規制についての Polis を使ったオンライン討議が始まる。
→2016/10 Audreyがデジタル大臣になる

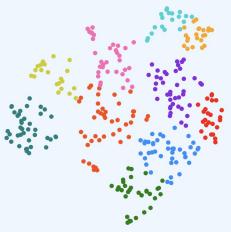
深層学習の技術→Talk to the City(2023~)

- AI Objectives Institutesが作ったブロードリスニングのツール
- 2023-24 vTaiwanのAI Assemblyなどに活用される
 - 400+人から 2000+件の発言が集まつたが Polisベースの仕組みだけでは限界、ニュアンスを保ったまま素早く可視化するため にTalk to the City を使った
- Audreyいわく
 - 2014年当時の g0v にはミニパブリックをインタビューして、そのアイデアを “ニュアンスを保ったまま” 集約する能力は足りなかった。
 - 今は Talk to the City のおかげで、そのコストがほぼゼロになった。
 - これはブロードリスニング であり、“再帰的な公共(recursive public)”のあり方を変えうる 。

Heal Michigan

What challenges are you and the community facing?

This AI-generated report is based on a collection of video interviews about challenges faced by individuals in Michigan, many of whom are formerly incarcerated individuals (referred to below as "returning citizens"). Twelve interviews were conducted in Summer 2023 during a collaboration between the AI Objectives Institute and Silent City.



“Ten years ago, the vTaiwan scope was limited, because stakeholder groups needed to adapt to the technology at the time. Today, this is being bridged with the advent of language models that can adapt to their needs. Back in 2014, it was impossible with the capacity of g0v contributors to interview a mini public of people and aggregate their ideas while preserving the full nuance. But now, with Talk to the City's help, that cost has been reduced to essentially zero. It's broad-listening and it can change the nature of this recursive public.”

- Audrey Tang, Taiwan's 1st Digital Minister and co-author of [Plurality.net](#)

<https://talktothe.city/>

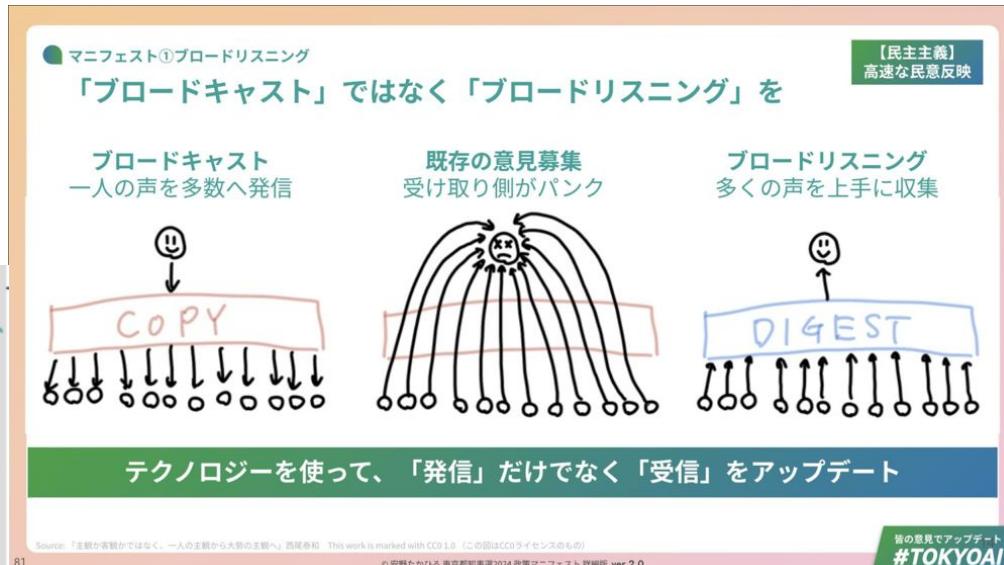
g0v→Plurality運動→Plurality本出版→日本語版出版

- Audrey的には2012年g0v立ち上げがこの運動の始まり*
- “**Plurality is here**” という言葉はデジタル大臣 就任時の職務記述書(2016)
- 2023からGlen Weylと共にGitHub上で**Plurality本**を執筆し、2024/5に出版
- 2023/4 日本で**Plurality Tokyo**が開催される
 - 西尾は高木俊輔さんに誘われて参加し、ブロードリスニング の概念に興味を持ち、Audreyの Keynoteを聞いて「これは日本語字幕をつけた方がいい、やります」と関さんに言った
- 2023/10 Plurality Tokyo Salon: **Plurality本の和訳の話**と**Glen来日予定**の話
- 2024/1 **Glen来日**
 - 西尾が和訳プロジェクトをリードすることに
 - 山形浩生さんが翻訳、鈴木健さんが解説、 2025/5に日本語版出版
- 2024/5にAudreyはデジタル大臣を退任し、Pluralityを広めるワールドツアーヘ
- **Tokyo Plurality Week 2025**: 日本語版出版記念でAudreyとGlenが来日講演
 - 慶應大学で行われた [Plurality Tokyo Namerakaigi #2](#)は日本語化されて YouTubeで見れる

* <https://cybozushiki.cybozu.co.jp/articles/m006240.html>

日本におけるブロードリスニング の普及

- 2024/5 西尾が公開してた**Plurality**本の機械翻訳 原稿を見た安野さんと「詳しく知りたい」「関さんも交えて話そう」となる
- 関さんが**Talk to the City**(TTTC)を紹介、安野さん「めちゃ面白そう」となる
- 安野さんにAIパブコメが盛り上がって、オープンデータになっていると聞き、それを使ってTTTCをやってみる(西尾)
- 2024/6~7 安野さんが**都知事選**でブロードリスニングを柱にする
- 2024/11~1 東京都が長期戦略に都民の声を3万件集めて分析



日本におけるブロードリスニングの普及

選挙報道での利用(日本テレビ) 2024/10



◎AIで可視化された就職氷河期当事者の政策ニーズ

資料②

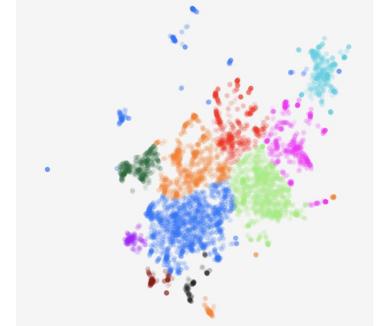
国会質問での利用(伊藤たかえ氏) 2025/1

オンライン新聞記事(朝日新聞) 2025/5

政党YouTube(日本維新の会) 2025/7



2025年6月3日~6月16日

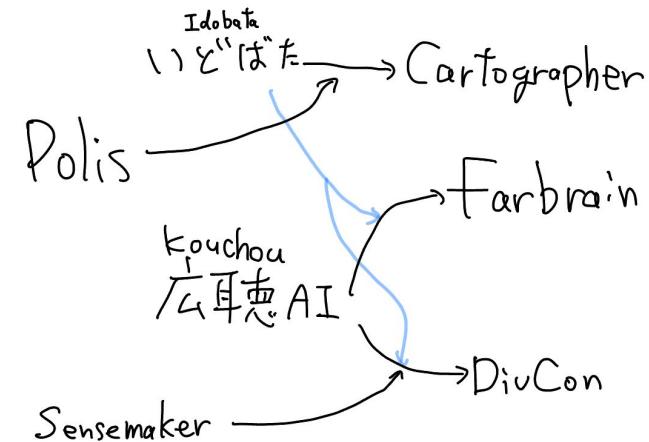


デジタル民主主義 2030 (Talk to the City→広聴AI)

- 2025/1 オープンソースプロジェクト「デジタル民主主義 2030」設立
 - ファウンダー：安野+鈴木
 - 日本テレビと東京都の事例でのTalk to the City使用経験を活かして、もっと使いやすくしたツールを開発開始、のちに 広聴AIと呼ばれるようになる
- 2025/3 広聴AI、いどばたシステム、Polimoneyの3つが公開
 - いどばたシステムは大勢の人がAIとの1対1のチャットをすることによって言語化が促され、チャットログの情報をAIが活用して政策提案や合意形成、対立の可視化、新しい視点の収集などをすることができる「新しいブロードリスニング」の動き
 - Polimoneyはお金の流れの可視化（西尾はあまり詳しくない）
 - 2025/5 安野さんが新党「チームみらい」立ち上げに伴ってボードメンバーから離れ、関さん他2名が参加、政党中立的な組織として活動していくことになる
 - 広聴AIやいどばたシステムは色々な自治体や組織での活用が広まった
- このプロジェクトでの知見を元に、さらにいろいろな試みが生まれている

影響を与え合って新しいものが生まれる

- Polis+いどばた+広聴AI
→Cartographer/farbrain/DivCon
- いどばたをPolis的な「質問に対するYes/No収集」スタイルに→Cartographer
 - 言語化やテキスト入力が苦手でもボタンを押すだけで参加できるメリットがある
- 広聴AIにいどばた的なインターラクティブさを持たせる→farbrain
 - 投稿した意見が即座に散布図上で可視化される
 - 大勢で意見を出し合うブレインストーミング向き
- いどばたの「対立点を見出す」仕組みを広聴AI的に既存の大量データに対して使う
→DivCon



	Pre collected	Interactive
Type of Topic Cluster	TTTC(scatter) Kouchou AI	farbrain
Insight	Conflicting Opinions	DivCon

未来に向かう流れ

- もちろんデジタル民主主義 2030以外でもいろいろなものが生まれている
 - 例えばNPOのMielkaはJAPAN CHOICE内でPolisをベースにして世論地図をリリースし、12000人が使ってPolisの日本最大のユースケースとなった
 - チームみらい はいどばたシステム の「AIインタビュー」の考え方を情報収集に特化させ「みらいAIインタビュー」を作成、法案などに対する専門的情報の収集などに活用している
 - まだ名前はないが音声で質問されて答える新しいブロードリスニングのツールなども模索
- 生まれたものがまた別のものを触発して未来へと繋がっていく
 - 何が有益かは現時点ではわからず、振り返った時に「これが有益だったね」とわかる
 - Connecting the Dots! どんどん点を増やしていく！

